

62
392

浮田和民
西洋中世史
浮田和民
字有達
學手講義錄

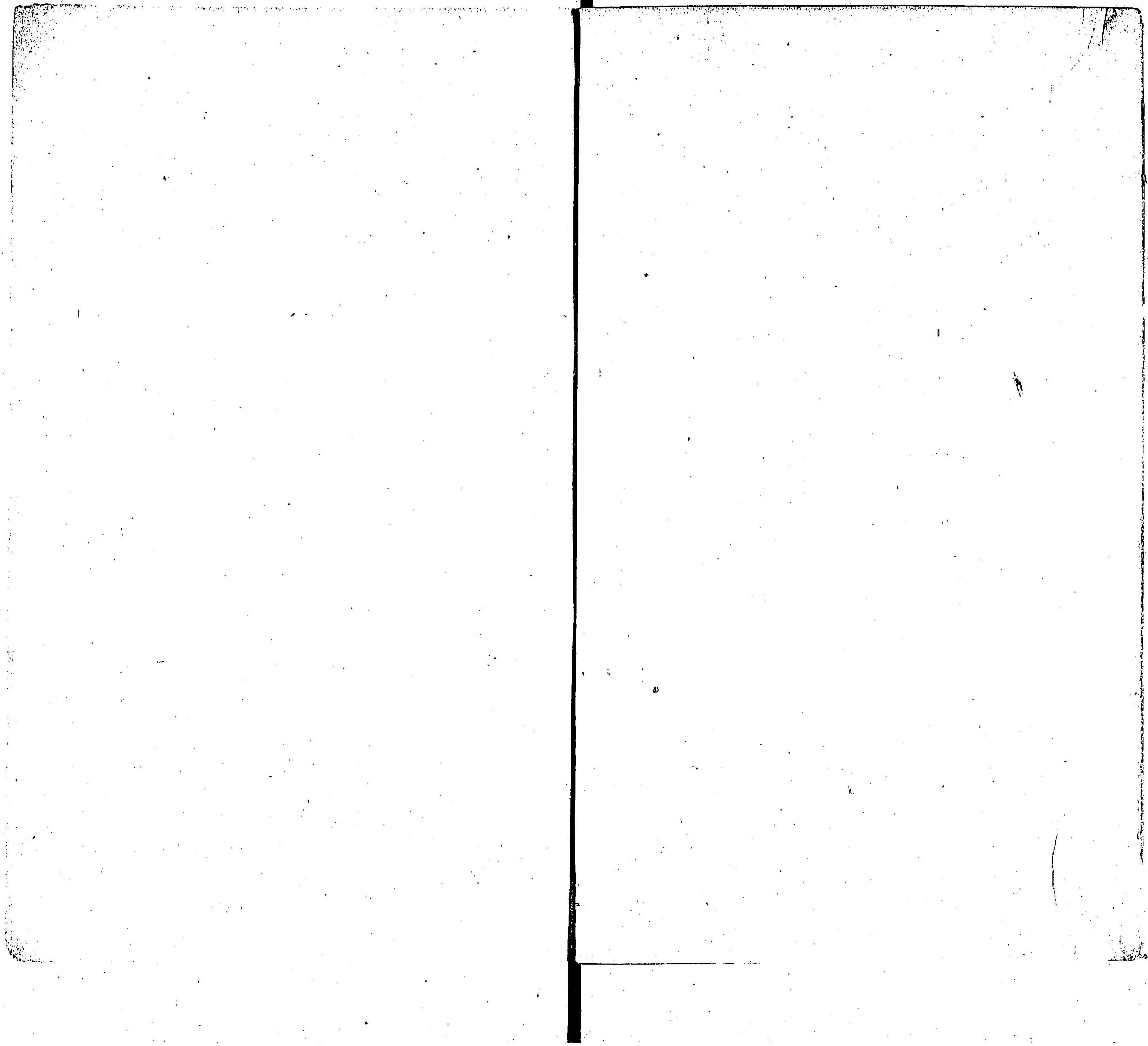
浮田和民

3 10432 000 0

62 392

西洋中世史

浮田和民 述



講師 浮田和民講述

西洋中世史

完

早稻田大學出版部藏版

西洋中世史目次

第一章 暗黒の時代……………二
第二章 聖羅馬帝國及び列國の起原……………一六
第三章 十字軍の時代……………二五
第四章 中世の末期……………四二

西洋中世史目次終

西洋中世史 目次

西洋中世史

緒言

講師 浮田和民講述

西洋の中古は紀元後第五世紀より紀元後第十五世紀の終りまでなり。之を四期に區別することを得べし。第一期は西羅馬帝國消滅紀元後四七六よりウエルダン條約紀元後五〇九の起原紀元後五〇九までにして所謂暗黒の時代なり。蠻族漸やく各地に割據し列國將さに其の萌芽を出さんとす。第二期はウエルダンの條約より第一十字軍の出發に至るまで紀元後一〇九六にして聖羅馬帝國及び列國起原の時代なり。全歐封建の大勢既に成り羅馬帝國の遺制度たる羅馬迦特力教亦た普及するの時期なり。第三期は十字軍の時代紀元後一〇九六にして迦特力教全盛を極め歐洲列國が東方アラビヤ帝國の文化と接觸し漸やく暗世の迷夢を醒まさんとするの時期なり。第四期は中世の末期復活の時代にして十字軍の終結より新世界の發見に至る紀元後一四九二。正に是れ列國勃興、文藝復興及び遠洋航海の大事件を發生するの時期なり。

第一章 暗黒の時代 紀元後六八四—七四三

西羅馬帝國瓦解後の伊太利 紀元後三百七十五年蠻族公然羅馬帝國内

に移住せしより羅馬帝國の西部は事實上蠻族の分割する所となり西ゴス人は南部ゴール及び西班牙に王國を建設し紀元後四一五、フンガール人は北部亞弗利加のカーセーシを首府として王國を建設し同四九、バルガンデア人は東部ゴールに割據し同四三、而してアングロサクソン人は漸次ブリテン島英國のを侵略するを始めた同四四。然れどもアングロサクソン人を除くの外蠻族は猶ほ名義上に於ては皇帝の權威を假りて各々其地を領有したり。然るに紀元後四百七十六年西羅馬の皇帝廢せられて理論上東西合一となりしも其實西羅馬帝國の滅亡にして從來此の地方に割據したる蠻族等は愈々獨立の形勢を現はすに至れり。就中伊太利に於ては蠻族の長オドロワカル東帝國の代官として政權を握ること十七年の後東ゴス人の長セオドリクの爲に破られ、尋て其の殺す所となりて亡びたり。當時の東羅馬皇帝ゼノは蠻夷を以て蠻夷を攻むるの策略を用ひ始はオドロワカルを承認し終にはセオドリクを許して伊太利を攻めしめたり。セオドリクは蠻人なりしも中々

賢明にして人民の土地三分の一を收めて之を部下の兵に分與し其他は敢て侵す所なく能く人民を安堵せしめたり。形式上彼は唯だ東ゴス人の酋長にして其の伊太利を支配するヤコンスタンチノールに於ける皇帝の代官たりしと雖ども實際彼れは強大なる獨立の王にして其の權勢は遠く南部ゴール及び西班牙に達したり。彼は紀元後五百二十六年に死したりしも其の王國は猶ほ二十九年間存することを得たり。是時遂に東羅馬帝國の爲に滅ぼされたり紀元後五五五。

東羅馬帝國の黄金時代

東羅馬帝國は後にはバルカン山の險あり前に

はボスフォラスの海峡を控へ要害堅固なるコンスタンチノールの首府によりて能く蠻人の侵入を防ぎ遂に第十五世紀に至るまで其の位置を保持することを得たり。東羅馬帝國の皇帝はアドリアチク海以西に實權を有せざりしかども機會ある毎に之を恢復せんと欲したり。羅句語は猶ほ官府の用語なりしかども普通の用語は希臘語にしてコンスタンチノールは實に希臘文學の中心なりき。西羅馬滅亡の後五十一年にして賢明なるヂヤスチニアヌスは皇帝の位に擧げられたり。彼れの治世紀元後五二七—五六五は實に東羅馬帝國全盛の時期にして皇帝

の武功は實に一世の大業と稱するを得べく其の文勳は更に其德澤を天下後世に傳へたり。彼れの文勳とは何ぞや。他なし羅馬法の編制即ち是れなり。羅馬の共和制衰へ伊太利人墮落して後帝國として猶ほ數百年を保つことを得たるは羅馬の兵制と其の法制との進歩したるが爲なりとす。然れども羅馬の法律は現今英米の法律と同一にして未だ編制せられざりしが故に先例後法錯雜矛盾して人民は其の正法を知るに由なかりき。ヂヤスチニヤン帝は即位の翌年ツリボニア・ン・ア・ス・ボニなる當代の碩儒及び九人の法律家に命じて羅馬公法典を編成せしめ尋て彼れ及び十七人の法律家をして私法の成典を編成せしめ同時に其の原理を著はさしめたり。是れ現今の歐洲列國に行はるゝ民法の淵源にして間接には我國現今の民法も亦之に負ふ所甚だ大なりと言はざる可からず。英米兩國は古來アングロ・サクソンの習慣律によると稱すと雖ども其實羅馬法に據る所多大なるは明白なる事實なりとす。

ヂヤスチニヤン帝は平和の事業に於てのみならず又た戦争の事業に於ても異數の功を成すことを得たり。而して皇帝と共に後世に赫々たる名を遺したる者は

將軍ベリゼリウスなり。是時に當り亞弗利加に於けるワンダール人の王國衰へたりしかば彼は一擊して之を滅し北部亞弗利加を帝國に恢復し紀元後三三〇年同時に南部西班牙を略したり。又た伊太利に於ける東ゴス人の王國もセオドリックの死後内政亂れて治まらざりしが故にヂヤスチニヤン帝は名將ベリゼリウス及びナルセスをして遂に東ゴス人の王國を滅し伊太利を回收することを得たり紀元後四五〇年。是の如くヂヤスチニヤン帝は東西羅馬帝國の兩首府を統治し帝國の版圖は西は大西洋より東はユーフレチース河に達したり。然れども帝の武功は永續する能はずして皇帝の死後三年にして伊太利には又もヤロンバルド人といふチユートン種の蠻族侵入し來り是より伊太利の一部は皇帝に屬し一部はロンバルド人に屬することゝなれり。皇帝はシ、リ、サルヂニヤ及びコルシカの三大島伊太利の南部羅馬ラヴェンナ地方及びヴェニス附近の諸島を有しロンバルド人は北部伊太利を占領し今に此地にロンバルデーの名稱を存するに至れり。伊太利に於ける皇帝の代官は蠻族の侵害を避んが爲め羅馬に在住せずして伊太利東北の海岸にあるラヴェンナ府に政廳を開きたり。是に於て羅馬には皇帝もなく

又た其の代官もなかりしが故に羅馬教會は其の教會組織の鞏固なると代々有爲の人物その教會の法主たりしとにより漸次その勢力を増加し遂に法王ポピュスと稱せられ西部歐羅巴の上に其の教權を振ふことを得たり。

回々教祖モハメツド紀元後五七 古代の波斯帝國は紀元前三百三十年歴

山大王に征服せられし後シリヤ王國の一部分となりしが後年バルシヤバルス人ア

ルサケース紀元後二〇 起りて新波斯帝國を建設したり紀元後二二 一時東羅馬帝國

治したり紀元後二〇 是時波斯人の中よりアルタザアルタシスアルタシヤツ

ル紀元後二四 起りて新波斯帝國を建設したり紀元後二二 一時東羅馬帝國

と新波斯帝國との間には大激戦ありて羅馬皇帝ヘラクリアス紀元後六一 及び波

斯皇帝コスロエ紀元後五八 は互に一勝一敗の中に相争ひつゝありしが

是時亞刺比亞の高原より突然偉大なる一勢力現はれ出で波斯帝國を一掃し殆ん

ど東羅馬帝國の命脈を絶たんとするに至れり。是れ即ち中世回教帝國の現出に

して此の帝國は東方及び西洋の中間に位し且つ古代羅馬帝國と近世歐洲諸國と

の中間に在りて文明の媒介を爲したるの功甚だ大なりとす。

紀元前六百六十六年亞西里亞帝國亡びて後波斯起り紀元前五八 セミチク人種の文明衰へ

てアツヤン人種に移りし以來、カイセカイセルカル人のみセミチク人種にして獨り能

く羅馬と大競争を爲すとを得たり。爾來セミチク人種は絶へて歴史上に頭角を

顯はすことなかりき。然るに紀元後第七世紀に至てセミチク人の一派なる亞刺

比亞人は亞細亞、亞弗利加、歐羅巴の三大陸を風靡するに至れり。抑も此の現象の

根源は久しく半開野蠻の中に生活したる亞刺比亞人の天性と其中に發生したる

偉人モハメツドの宗教とに存したり。モハメツドは元來ハラビと名づけ、亞刺比

亞の聖都メツカといふ處に生れたり紀元後五七一 當時亞刺比亞には一定の國家なく

其の内地には古代埃及の動物崇拜、巴比倫、波斯等の天跡崇拜及び其他の偶像教行

はれ又た其上に猶太教及び基督教共に一流入し來り、無政府の状態に乗じて三大

陸の諸宗教は自由に其中に流行したり。モハメツドは亞刺比亞人が統一を希ふ

の欲望と當時内外宗教の誤謬とによりて一種の新宗教を觀念し直に之を以て亞

刺比亞統一の目的を達することを得たり。彼れの宗教はセミチク人種の中より

起りたる三大宗教の一にして今に土耳其の國教なり。又た北部亞弗利加、波斯、印

度及び支那帝國に蔓延せり。モハメッドは當時の基督教か三一神教を誂き又た僧侶の無妻主義を神意となしたるに反して純然たる唯一神教を唱へ又た無妻主義を排して多妻制度を許したり。從來亞刺比亞には無制限なる多妻制度行はれたりしが彼は其數を制限して之を許可したるのみ。彼は決して一妻主義に反して多妻主義を行ひたるには非ざるなり。又た亞刺比亞に流行したる偶像崇拜の弊習を排斥して無形なる唯一の眞神を崇拜せしめたり。彼は疑もなく當時の亞刺比亞に於ては一種の改革者なりき。彼に最初平和の手段によりて其の宗教を擴布せんと欲して成らず迫害の爲めにメッカを脱れてメヂナに行き紀元後六二二爾後彼れの信徒等は自己防衛の必要上兵器に訴ふるに及び却て亞刺比亞の統一と教法の傳播とを同時に成功することを得たり。

亞刺比亞帝國の膨脹 中央政府なき半開の國に於てモハメッドが刀劍を用ひて宗教を傳播せしめ且つ國家を建設するに至りしは正當の事なりと言はざる可からず。何の國家か兵力と宗教とによらずして起りしものありや。後世基督教國の史家が彼に對する非難は歴史的批評の當を得たるものに非ざるなり。

モハメッドは最初三年の間説教のみに依頼して信徒僅かに四十人を得たり。兵力を用ふるに及び十年にして亞刺比亞の中央を除くの外其の全部を統一し亞刺比亞人をして始めて眞正の國家と唯一の國教とを得有せしめたり。彼れは同時に亞刺比亞の宗教改革者たり又た亞刺比亞帝國の創業者たりき。彼れは亞刺比亞以外に宗教及び帝國を擴張するに遑なくして死したり紀元後六三二。彼れの事業を繼承したるものはカリフ原カリフ後と稱せられたり。彼等は同時に宗教上及び政治上の主權を有したり。即ちカリフは同時に法主にして又た帝國の君主なりき。第一のカリフはアブーベクル、第二はオマルにして此人は教祖メヂナに逃難の年を以て回教の紀元ヘツチラとなし、又た波斯を征服し帝國を國外に擴張するの大計畫を立てたり。是に於て亞刺比亞人は同時に羅馬帝國と斯波帝國とを攻撃したり。シリヤ及び埃及は忽ち征服せられて彼等の有となれり紀元後六三九。是等は從來羅馬帝國の版圖にして基督教の行はれたる所なりしも元來希臘若くは羅馬の文化及び勢力の最も薄弱なる部分なりき。又た波斯帝國も遂に十九九年にして全國彼等の有に歸したり紀元後六五二。然れども回教徒の軍は猶ほ容易

にコンスタンチノールを陥るゝこと能はずして漸次亞弗利加の北岸を掠めて西に蔓延したり。紀元後七百九年までに遂に北亞弗利加の全部を征服しジアルタルの海峽を超えて西班牙に進入したり紀元後七〇〇。

ジアルタルとは亞刺比亞語の譯語にして實はサエーヘル、アル、タリク(タリクの山)といふ語なり。タリクとは始めて此の海峽を超えたる亞刺比亞人中の大將の名にしてサエーヘルトは山といふ義なり。

是に於て西ゴス人の王國忽ち顛覆せられ、モハメツド死後百年にして亞刺比亞人は今の佛蘭西の中部まで進軍したり。又た東方に於て彼等は波斯以東印度の西部まで其の侵略を膨脹せしめたり紀元後七〇七。是に於て亞刺比亞帝國は東西四千哩以上にして羅馬帝國よりも大なる版圖を領有したり。最初カリフの都府はメヂナなりしが後之をシリヤのダマスコスに移し紀元後六六六。遂に之を波斯のベグダッドに定めたり紀元後七六二。是の如く紀元後第八世紀の始め回々教の勢力は東は印度より西は佛蘭西に達したりしが是より先き亞刺比亞帝國の膨脹漸やく其極度に達して内部の一致を缺き、恰かも羅馬帝國が東西に分裂したるが如く此の帝

國も亦た内争の爲に東西兩帝國に分裂したり紀元後七五五。是より東は波斯のバグダッドを首府とし西は西班牙のエルドワを首府として東西相應じ回教の勢力を維持したり。

フランク王國の興起

亞刺比亞人の帝國は以上の如く内部の不一致によりて大に其の膨脹力を減殺したり。而して之と同時に西部歐羅巴にはフランク人の王國儼然として卓立し能く回教軍の銳鋒を挫きたり。フランク人の王國はクロツドゥイヒ(クロウカス) 紀元後四八一によりて創業せられ、爾後漸次に今の獨逸及び佛蘭西の間に膨脹したり。獨逸の西南にフランケン英フランクといふ地名存し又た近世佛蘭西の名稱起りしは其の結果なりとす。クロウカス戰勝の結果により自から卒先して迦特力教徒となり部下の兵三千人同しく受洗せし以來フランク王國は實に西歐に於て基督教の保護者たる位置を有したり。或はいふクロウカスの祖をメロウカスと云へり故にクロウカスの系統をメロウカインヤン朝紀元後四八一と稱するなりと。又た一説にはクロウカスの酋長たりしフランク人はメルウエ即ち海濱の地に住したるが故なりと。晩年其王懦弱にして實

一三
権は北方の諸侯にして王國の宮相たりシアウストレシヤ公に存したり。紀元後八世紀の前半期亞刺比亞人がピレニース山を超えて今の佛蘭西の中部に侵入するや當時宮相たりシアウストレシヤ公チャールスマルテルカールマはツールの戦に奮闘して回教徒の軍を破り基督教國を救ひたり紀元後七三二。其子ピピンは戦功により羅馬法王の認可を得て遂に前朝の末王を廢し自からフランク王となり紀元後七一七。回教の軍を西班牙に驅逐したり同七五。是より以後カロウインジアン朝と稱す。是れピピンの子にカール大帝佛シヤレメルマンあるを以てなり。シヤールメーンとは佛語にて大シヤールといふ義にて後世英佛一般に之を通稱となすに至れり。然れとも元來フランク人は民種言語ともに全く獨逸人にして大帝の原名はカールに外ならざりき。然れとも本書には便利を主としてシヤレメーン帝と稱す可し。彼は父に代はりてフランク王となり紀元後七六八。治世四十六年五十三戰を爲して其の版圖を四方に擴張し、或は伊太利のロンバルド王國を倒し紀元後七七四。或は北部獨逸のサクソン人を征服し同七八〇。又た西班牙の回教徒を討てフランク王國の版圖をエプロ河にまで及ぼしたり。其の武功により彼は西羅馬帝國の

皇帝と稱せらるゝに至れり。

是より先き第七世紀の間東羅馬皇帝はコンスタンチノールにありて猶ほ伊太利の羅馬ラヴェンナ及び其他の地を領有したりしが第八世紀に至りて其の大部分を失ひたり。紀元後七百十七年小亞細亞のイサウリア人レオ皇帝の位に擧げられ亞刺比亞人よりコンスタンチノールを救ひ紀元後七一八。其功はチャールスマルテルの西に於ける偉勳と相對して光榮を放ちたり。次に彼れの子コンスタンチン五世位に即き紀元後七四一能く回教徒と戦ひしが當時不幸なる神學上の爭論起りて再び東西の分裂を生じたり。是れ基督教徒の間に聖徒の像を崇拜するの習慣に關する紛議にして皇帝及び東方の人民中之を偶像教となして排斥したりしに伊太利地方に於ては聖像崇拜を正當となし羅馬の監督(法王)等亦た之を是認したり。此の如き紛争の爲に伊太利に於ける東羅馬皇帝の勢力益々微弱となり、ロンバルド人は其の政廳の所在地ラヴェンナまでも侵畧したり。是に於て羅馬も亦た危殆ならんとするに及びしかば羅馬人及び羅馬法王は遂にフランク王ピピンに救援を乞ひ、ピピンは兩度伊太利にゆき紀元後七五五、ロンバルド王を討てラヴェンナ

を恢復し羅馬を救ひ其の回收したる土地を教會に獻じたり。其の子シャルメー
 ソ復た法王の請によりて伊太利に行き遂にロンバルド王國を滅して南部を除く
 の外全伊太利を征服し、父ピピンが教會に寄附したる領土を更に確乎たる教會の
 所領となしたり紀七四後。是れ即ち法王領の起原なりとす。然れども尙ほ從來主
 權は東羅馬皇帝に存しなり。然るに東帝國には皇帝コンスタンチン六世の母ア
 イレーチー權を專にして皇帝を廢し遂に之れを弑したり。是れに於て歐羅巴の
 人民は此の暴虐なる女主を正當の君主となすを欲せず羅馬帝國の舊都たる羅馬
 人は寧ろ新羅馬チノノスタプルよりも皇帝を選擧するの權利ありとなしたり。羅馬
 法王は遂にフランク王に皇帝の冠を授けアウグスツスの尊號を與へたり紀元後八〇〇。
 是れより實際に於て二個の帝國成立し、一はコンスタンチノールに在りて統治
 し、一はフランク王國を基礎として西歐羅巴を統治したり。
 シャルメーン帝は中世の大人傑にして彼れが羅馬法王を保護し且つ其の教權に
 依りて帝位を鞏固ならしめ、皇帝と法王と相提携して全基督教國を統一せんとし
 たる事蹟は中世歐洲史上の一大典型となり後世の諸皇帝皆な悉く彼れの模型に

則とりしことは源賴朝の我朝に於けると同一なりとす。彼の六ナポレオンの如
 きも或る意味に於てはシャルメーン帝を理想となしたりと言ふことを得べし。

中世第一期の概括

此の如く紀元後第五世紀に於て東西羅馬帝國は名義
 上一に合したりしが其實は西部羅馬帝國の瓦解に外ならざり紀元後四七六。第六世
 紀に於て東帝國は全伊太利、北部亞弗利加及び西班牙の一部を回復したりしも伊
 太利の大部は直ちにロンバルド人に侵略せられたり。第七世紀に於て波斯新帝
 國大に東羅馬に勝ち次に東羅馬又た之に大反撃を加へたり。然るに亞刺比亞人
 忽ち波斯を滅し羅馬帝國の東部及び南部を併呑し殆んど全西班牙及びゴールの
 一小部を略取したり。是時に當りフランク王國ありて能く回教の軍を防ぎ、シャ
 ルメーン帝に至りて再び西羅馬皇帝を見るに至れり。されば第九世紀に於ては
 羅馬帝國も又東西に分裂し而して東西に分裂したる回教徒の帝國と相照應した
 り。當時亞刺比亞帝國は東部のバクダッド及び西都のコルドワを中心として燦
 然たる文化を發達せしめたり。彼等は宗教心に滿ちたる蠻族の勢力を以て一時
 に東西に蔓延し西は希臘の文化を吸收し東は印度及び支那の開明に接觸し西歐

羅巴暗黒の時代に於て一道の光明を放ちたり。近世歐洲の文明は實に亞刺比亞人に負ふ所甚だ多しとす。彼のシヤレメーン大帝は英邁の君主にして勉めて東方の回教國と好を通し又た夙に文學の復興を圖りしかども時勢未だ到らずして彼れの死後其の大版圖も漸次瓦解し其の諸孫帝國を分割して爰に近世獨佛伊の三國を産するに至れり紀元後八四三

第二章 聖羅馬帝國及び列國の起原紀元後八四三—一〇九六

シヤレメーン帝國の分裂 シヤレメーン帝は不世田の才を以て全ヨーロッパ、日耳曼、西班牙の北部及び伊太利の大半を統一したり紀元後七六—八一四。然れども其

子ルホルト一世同八一四—八四〇は溫柔の君主にして當時大帝の偉業を紹介の器にあらず、フランク王國の制に従つて其の版圖を諸子に分與したりしも其の分割公平ならずとして諸子彼れに叛き父子兄弟軍陣の間に相見るに至れり紀元後八〇三—八四一。帝死するに及びて長子ロタール帝位を繼ぎしが二弟相聯合して大に長兄の軍を敗り紀元後八四一。遂にヴェルタンの今佛の北部の條約によりて各々其の分領する所を定めたり同八四一—八四三。一千八百四十三年獨逸はヴェルダン條約の千年を祝して明白に獨逸の紀元三〇

なることを認識したり。

此の條約によりて長兄ロタールは帝位とフランク王國の中部とを得たり。其の版圖はシヤレメーン帝の兩首府たる西獨逸のアーヘンと伊太利の羅馬とを包含しロタリンギヤと稱せられたり。今のロトリンゲン(佛、ロシ)は其の一部分にして名のみ今に傳はれり。其の東は次弟ルドウイヒに屬し今の獨逸此名は第十二世紀に起るを多く包含し又た其の西は末弟チャールス佛、シャルル禿王に屬し始めはカロリングキヤと稱せられたり。ロタールの二子死せし後其の領分は二叔父の間に分割せられたり。是の如く東フランク王國より現今の獨逸生じ西フランク王國より今の佛蘭西生じロタール帝領の斷片より今の伊太利、瑞西、白耳義、荷蘭等生じ來れり。獨逸、佛蘭西、及び伊太利 前述の三王國は一時繼嗣なかりしが爲に獨逸の王ルドウイヒの子チャールス(カール)肥王紀元後八七六—八八七によりて統一せられたれども彼れ無能にして北人の侵入を防ぐ能はず、三國各々彼れを廢して獨立したり紀元後八八七。是より後三國絶て合するとなく、東フランク人(獨逸)はルドウイヒの庶孫アルヌルフを立て、王となし其子ルドウイヒ兒王の死に至りて東部に於けるシヤ

レメーソン帝の系統は絶へたり九一〇後。是より獨逸はフランコニヤ公コンラッドを王となし選舉王制となしたり。西フランク人は巴里を首府としたるフランシヤ公オドを擧げて王となしたり八八〇後。然れども南方に於てはチャールス禿王の孫チャールス愚王猶ほ奉戴せられ爾後又たフランシヤ公王たりしことも概して王位はル非五世の時までシヤレメーソン帝の系統に存したり。ル非五世死するに及びてフランシヤ公ヒューカベツトカベツト遂に王位に昇り九八七後其の子孫は第十九世紀の前半期まで佛國の王たることを得たり八四八後。是より巴里は全國の首府となり又たフランシヤ公漸次諸侯の土地を收めて之を直轄するに從ひカロリニギヤの名は廢せられて全國佛蘭西の名を以て稱せらるゝに至れり。又たロタリンギヤは全く獨逸の一部分と見做さるゝに至れり九八七後。紀元後八百八十七年チャールス肥王の廢後北部伊太利にてはフリーウーリー侯ベレンガル一世を立て、王となし又た羅馬法王はスポレート公キードーを立てて皇帝となしたり。是より伊太利は統一なき國家となりて外國の干涉を誘引するの止む可からざるに至れり。

此外フランク王國の斷片よりバルガンデー王國起り二個に分裂して一部アール今佛國の東南に在りを中心としてアール王國と稱し又た一部はアルプスの西部にありて一王國を爲したり。是の如くフランク王國は總計五王國に分裂したり八八七後。

聖羅馬帝國 チャールス肥王の廢後皇帝の位は一定せずして羅馬法王は伊太利のスポレート公キードー及び其子ラムベルトを皇帝に擧げたり。尋て獨逸の王アルヌルフは彼等の反抗者たるフリーウーリー侯ベレンガルの爲に誘引せられて伊太利に入り八九四後翌年羅馬を陥れて皇帝の位に即きたり八九六後。然れども彼れ去りて伊太利は又た統一なく一時ベレンゲル獨り伊太利の王となり九〇〇後尋て皇帝となりしかども九一五後競争者多く特に羅馬法王の反對によりて遂に伊太利を統一すること能はざりき。

ベレンガル一世の刺殺せらるゝや九二四後バルガンデー(アール)王ロユエー及其子ロタールは伊太利の王たりき。ロタールの死するやイウレーア侯ベレンガルの孫はロタールの寡婦にして一世の美人たりしアデライドを強迫して其子アダルベルトに嫁せしめんと欲したり。アデライド聽かずして久しく幽囚の身となり遂

に脱して日耳曼王オト一世の救援を求めたり。

獨逸はフランクコニヤ公コンラッド王となりし後サクソンニ公ヘンリーハイン王に選舉せられ^{九一八}後尋て其子オト一世又た王に選まれ^{同九三六}オト二世オト三世代々相選まれヘンリー二世に至りてサクソニー朝の系統は絶へたり^{紀元後一〇二四}。當時獨逸の諸王は北人スラヴ人及び其他の蠻族と戦ひたりしが其の最も強敵たりしは蒙古人種の一派マツチャル^{匈牙}なりき。是の如き東フランク王國(獨逸)は歐羅巴の中央にありて北人及び東方諸蠻族の侵襲し來る衝路に當り中世に於て最も重要な位置に立ちたりき。

前述の如く獨逸の王オト一世は伊太利に誘引せられたり。イウレーアー侯ベレンガルを討て臣下となしアデライドを救ひて之を我妻となしたり^{九一八}後年ベレンガル復た叛き羅馬法王ジョーン十二世に依頼せられて再び伊太利を遠征し^{九六二}翌年羅馬にて皇帝の位に即きたり^{同九六二}。是に於てオトはシャールメー^{九六二}ン帝が法王に與へたる領土を確認し又た羅馬人は皇帝の認諾なしに法王を選舉せざる可しと約束したり。之を神聖羅馬帝國の起原となす^{九六二}。

神聖羅馬帝國の名は紀元後一千百五十六年皇帝フレデリク一世の時より一般に用ひられたれども其淵源は紀元後八百年シャルメーン帝の即位にあり而して其の中世に於ける定義の實を有するに至りしはオト一世の事業なりと言はざる可からず。是より以後西羅馬帝國といふよりも狹義にして確定なる意義を有し獨逸及び伊太利の王權を獨逸の王が併有することを意味し即ち獨逸の王に選まれたる者はミランに於て伊太利王の位に即き又た羅馬に於て皇帝の位に即き三重の冠を被むるの權利を有するものと思惟せらるゝに至れり。又た是よりして獨逸の王は羅馬皇帝と稱し従前の如く東フランク王と稱することを廢したり。故にフランク王の名稱は獨り西フランクの王にのみ歸することとなりたり。

英國の起原 紀元後四百十年羅馬皇帝ホノリウスは帝國の本部を保護せんが爲めブリテン島より其兵を引き上げしかば北部獨逸の方面よりジュート人、アングル人及びサクソン人侵入し來り先づケント王國起り^{紀元後四九二}次にウエスセックス王國起り^{五七〇}漸次に七王國建設せられたり。アングル人は最も多數にして土地の大部分を占領したりしが故に遂に全國をアングラランド^同と稱し

民族及び言語をイングリッシュと稱するに至れり。然れども後世之をアングロサクソンと稱するを以て通例となす。此の三民族は獨逸の北部に住し羅馬の文明及び基督教に接せざりしが故に、ブリテン島は一時異教國に退却したりしが羅馬の大法王クレゴリー一世英國に宣教師を遣はし布教に従事せしめたり紀元後五九七。是より百年ならずして諸王國皆な基督教に感化せられたり。第六世紀及び第七世紀の間七王國の競争強烈なりしがウエスセツク王エグベルトの時代紀元後八三〇に於て大略全國を統一するを得たり。彼れは紀元後五百十七年に始めてウエスセツクス王國を建設したるセルヂクの子孫にして今の英國皇帝エドワード七世三十八代の高祖なり。

然れども英國の西部ウエールスには猶ほ元のブリットン人住し又た其の北方には彼等と同民族なるケルト種の一派ピクト人及びスコット人住したり。故にエグベルトの統一は僅かに今のインクランドの大部分にしてそれすら舊王國の遺制ありし爲に完全ならざりき。第九世紀の後半期北人（嚙人）侵入し來りて英國の大部を掠めエグベルトの孫アルフレッド大王紀元後九〇一苦戦して能く父兄の業を

大成し且つ文化を興起せしめ後世明君の模範と爲れり。然るに第十世紀の末に到りて北人益々猖獗を極め遂に全國を征服し、デーン人の王クヌット英國の王位に即くに至れり紀元後一〇一六。クヌットは今の嚙英國、那威、及び瑞典の一部を統治したり。

當時北人は最も勇猛にして其中瑞典人は北及び東に進みてフィンランド及び露西亞を侵し、那威人はアイスランド、グリーンランド及び新世界に移住し紀元後一〇〇〇。又た嚙人は西部歐羅巴を侵したり。第九世紀に於て北人はゴールの海岸を掠め遂に第十世紀の始め那威の海賊ロルフは今の北部佛蘭西に方て大領地を占有し、西フランク國のチャールヌス愚王之に公爵を授け以て王國の一大諸侯となしたり。

之をノルマンディー公國の起原となす紀元後九一二。英國に於てはクヌットの死後紀元後一〇三五二子相繼ぎしが彼等の死後再びアルフレッド大王の系統を立て、王となしたり。之をエドワード、ゼ、コンフェツルと稱し、アングロサクソン王朝の最後となす紀元後一〇六六。彼れの母はノルマンディー公リチャルドの孫の女にして、デーン人政を專にせし間エドワードはノルマンデー

民族及び言語をイングリシと稱するに至れり。然れども後世之をアングロサクソンと稱するを以て通例となす。此の三民族は獨逸の北部に住し羅馬の文明及び基督教に接せざりしが故に、ブリテン島は一時異教國に退却したりしが羅馬の大法王クレゴリー一世英國に宣教師を遣はし布教に従事せしめたり紀元後五九七。是より百年ならずして諸王國皆な基督教に感化せられたり。第六世紀及び第七世紀の間七王國の競争強烈なりしがウエスセツク王エグベルトの時代紀元後八三〇に於て大略全國を統一することを得たり。彼れは紀元後五百十七年に始めてウエスセツクス王國を建設したるセルヂクの子孫にして今の英國皇帝エドワード七世三十八代の高祖なり。

然れども英國の西部ウエールスには猶ほ元のアットン人住し又た其の北方には彼等と同民族なるケルト種の一派ピクト人及びスコット人住したり。故にエグベルトの統一は僅かに今のイングラントの大部分にしてそれすら舊王國の遺制ありし爲に完全ならざりき。第九世紀の後半期北人（イ）侵入し來りて英國の大部を掠めエグベルトの孫アルフレッド大王紀元後八七〇—九〇一苦戦して能く父兄の業を

大成し且つ文化を興起せしめ後世明君の模範と爲れり。然るに第十世紀の末に到りて北人益々猖獗を極め遂に全國を征服し、デーン人の王クヌット英國の王位に即くに至れり紀元後一〇一六。クヌットは今の噠英國、那威及び瑞典の一部を統治したり。

當時北人は最も勇猛にして其中瑞典人は北及び東に進みてフィンランド及び露西亞を侵し、那威人はアイスランド、グリーンランド及び新世界に移住し紀元後一〇〇〇。又た噠人は西部歐羅巴を侵したり。第九世紀に於て北人はゴールの海岸を掠め遂に第十世紀の始め那威の海賊ロルフは今の北部佛蘭西に方て大領地を占有し、西フランク國のチャールス愚王之に公爵を授け以て王國の一大諸侯となしたり。

之をノルマンデー公國の起原となす紀元後九一二。英國に於てはクヌットの死後紀元後一〇三五二子相繼ぎしが彼等の死後再びアルフレッド大王の系統を立て、王となしたり。之をエドワード、ゼコンフ、エツソルと稱し、アングロサクソン王朝の最後となす紀元後一〇六六。彼れの母はノルマンデー公リチャルドの孫の女にしてデーン人政を專にせし間エドワードはノルマンデー

に逃れたり。彼れ死するに及びて英國人は諸侯の一人ハロルドを擧げて王となしたりしがノルマンデー公ウイリヤム一世代の孫^ハはエドワードの遺言又ハロルドの約ありと稱し兵を率ひて英國に上陸しヘスチングスの戦に於てハロルドを敗死せしむ遂に英國王の位に即きたり^{紀元後〇六六}。故にウイリヤム勝王の名あり。彼れの死後其子ウイリヤム二世嗣ぎ其弟ヘンリー一世之に繼で立ち且つアングロサクソン王族の遺女を妻とせしより後世英國の王室は同時にアングロサクソン王朝及びノルマンデー公の子孫たるに至れり。英國の現皇帝エドワード七世は實にウイリヤム勝王三十八代の孫なり。是れ則ち中世に於ける英佛百年戦争の遠因なりとす。

中世第二期の概括 是の如く紀元後第九世紀及び第十世紀に於て重なる歐洲列國の興起を見たり。第九世紀に於てフランク王國より獨佛、伊の三國生じ又英國にはアングロサクソン王朝漸次統一をなし又た北方に於ては哣瑞典及び那威の三王國發生したり。同時に瑞典の冒險者ルーリクは露西亞人に誘引せられて露國王室の祖となり^{紀元後八六二}。ポーランドも亦た漸次獨立王國となるに至れり。

西班牙半島は猶ほ回教徒の手にありしと雖ども漸次基督教の諸國北方に起りつつあり而して東羅馬帝國はコンスタンチノープルの堅城によりて依然其の位置を保ちしのみならず第十世紀に於て頗ぶる其の版圖を擴張することを得たり。第十一世紀までに全歐羅巴は概して基督教に感化せられたり。但だ其の例外たるは西班牙及びシ、リに於ける亞刺比亞人又た北部歐羅巴に於ける普魯西人リスエニヤ人、フィンランド人及びアラランド人なりき。

第三章 十字軍の時代^{紀元後一〇七〇—一〇九六}

法王と皇帝 神聖羅馬帝國起りし以來全基督教國は理想上に於ては一の羅馬法王精神界を支配し又一の羅馬皇帝ありて政治界を支配することとなれり。法王の教權は東羅馬帝國及びコンスタンチノープルの監督に屬する部分東部歐羅巴を除くの外西歐羅巴一般に行はれて頗ぶる基督教國の名稱を現實ならしめたり。然れども皇帝の政權は其實獨逸、伊太利に止まりてそれすら後には甚だ薄弱なるものとなれり。サクソニー家の皇系^{紀元後九一四—一〇二四}及びフランク家^{紀元後九一四—一〇二四}の皇系^{紀元後一〇二四—一〇二四}聖羅馬帝國の主權を握りし間皇帝は概して法王よりも有力なり

き。特にフランコニヤ皇統のヘンリー三世紀元後一〇五九は獨逸及び伊太利に於て大に皇帝の權を擴張し伊太利の惡法王を排斥し善良なる獨逸人を擧げて法王となしたり。然るに其子ヘンリー四世紀元後一〇〇六は薄弱にして位に即くに及び有名なる中世の偉人ヒルテブランド現出し、教會を改革して俗權の干涉を絶ち大に教權を振ふて戰國亂離の人民を救濟せんことを欲したり。是時に當り法王と皇帝の權限錯雜して明白ならず皇帝の即位は法王の司式を要し、法王の選舉は皇帝の認可を要し、且つ教會も亦た列國に於て土地を所有し之が爲に俗權の管轄を受けざる可からざりき。當時教會の監督等は指環及び牧杖を皇帝より受けて其職に就きたりしが元來此式は基督と信徒の關係夫婦の如く又た僧侶の信徒に於けるは牧者の羊に對するが如しとの寓意なるが故に宗教上の式にして政治上の意義なく、且つ僧侶多く妻帯して俗權に屈從したりしかばヒルテブランドは大に僧侶の無妻主義を勵行し且つ法王選舉の憲法を定めて皇帝の干涉を絶ち紀元後一〇八五。又た俗人をして僧侶を任命せしむるの弊根を絶たんことを期したり。彼れ法王となるに及びてグレゴリー七世紀元後一〇八五と稱し、大に皇帝ヘンリー

四世と爭端を開き教權の獨立を實行したり。ヘンリー四世はグレゴリー七世を廢せんとして却て破門せられ獨逸の諸侯皇帝に叛きて彼れの官職を停止せんとするに及びヘンリー四世は止むを得ず法王の門に到りて其罪を赦さんことを哀請したり紀元後一〇七七。ヘンリー五世紀元後一一二〇六父に代りて位に即き又た父と同じく法王と争ひしが遂にウオルムスの教約によりて調和成り皇帝は指環及び牧杖を僧侶に授くるの權を抛棄し單に笏を授與することゝなし以てその局を結びたり紀元後一一二二。是より法王の權益々熾にして列國の帝王諸侯伯も教會の神權を恐れて大に人民を厚遇するの必要を感ずるに至れり。

ヘンリー五世死してサクソニー公ロタール位に擧げられ、次にホーヘンスタウフエン一名スワビヤ朝紀元後一一三五八となり、獨逸にはサクソニー前朝の黨とスワビヤ現朝の黨と爭端を開けり、而して其争延て伊太利に及びケルツ黨及びキペリオン黨と稱せられ前者は皇帝に屬して帝國の保全を希望し、後者は法王に屬して伊太利の獨立を希望したり。ケルツとはサクソニー黨の首領たるバヴアリア公ヘンリーの祖ウエルフの名より出て、キペリオンとはホーヘンスタウフエン家の城

の名に基きて伊太利に用ひられたる黨派の稱號なり。當朝の第二代フレデリク一世紀元後一〇五二—一〇九〇は獨逸に於てはサクソニー公ヘンリーライオンと争ひ又た伊太利に於ては法王及び伊太利の諸市と相争ひ屢々伊太利を征討したり。伊太利の諸市は皇帝の多く獨逸にありて伊太利に在らざるに乗じ古代希臘諸市の如く殆んど獨立自治の權を有したり。諸市は皇帝の權力に反抗してロンバルド同盟を組織し大に皇帝の軍を破り遂に皇帝をしてコンスタンヌスの和約を講じ諸市の自治權を讓與せしめたり紀元後一〇八三—一〇九〇。其の子ヘンリー六世立ち紀元後一一〇一—一一二五又た其子フレデリク二世立ち紀元後一二〇一—一二五〇復もや不出世の才を以て法王及び伊太利の諸市を屈服せしめんとなしたれども法王インノセント四世はリオンに教會の大會を開きて彼れの廢位を宣告し紀元後一二四五而して皇帝は却て之が爲に獨逸の諸侯に特權を讓與し皇帝の權力を薄弱ならしむるに至れり皇帝は廢位の宣告を聞きて列國の君主に救援を求めて曰く我亡びなば卿等亦た皆な亡びんと。以て當時教會の權力如何に強盛なりしかを知るに足れり。是の如く無形の羅馬帝國を建設したるは羅馬人累代の政治的天才によると一にはク

レゴリー七世が絶代の天才を以て此の大業を成就せしめたるによれり。而して十字軍の遠征も亦た大に此の結果を生ずるに與かりて力ありき。

十字軍の起原

紀元後一〇九六—一〇九七

中世の間基督教徒と回々教徒とは到る所に於て戦ひつゝありき。西班牙に於ては元の西ゴス人の王裔ベレヨールベラキウス一世西北の一隅に割據し紀元後七七一—七三三後世アステュリアス王國と稱し南進してオン王國と稱したり。第十一世紀の初年西班牙に於ける回教國哀へ北方の基督教諸國レオン、ナワール、アラゴン、カスチール漸次南進しレオン及びカミチールの二國合併して一となり紀元後一〇三七其王アルフォンソ六世は西ゴス王國の舊都トledoを恢復したり紀元後一〇八五。葡萄牙も亦た同時に基督教の伯爵領となり紀元後一〇九五後又た王國となりて南進を始めたり。又た南部伊太利に於ては第十一世紀ノルマン人來りて回教徒と戦ひシ、リに渡りて全島を恢復したり紀元後一〇六二。然れども回教徒と基督教徒との戦争は専ら東方に存したり。是時バグダッドの回教主は其の權力を失してセルジューク族の土耳其人漸やく之に代り小亞細亞に於て王國を建設し其の君主はロームのスルタンと稱したり紀元後一〇九二。而して

土耳其人の主權に屬してより巡禮の爲めパレスチンに周遊したる基督教徒等はアラビヤ人の時よりも多く虐待せられたり。

是より先き羅馬法王シルベスター二世紀元後九九〇—一〇〇三は基督教の靈場たるエルサレムの舊都異教徒の手に委せらるゝを慨して基督教諸國の君主等に訴へ又たクレゴリー七世紀元後一〇八五—一〇八七も東羅馬皇帝マニユエル一世の請求に接し自から五万の騎兵を以て聖墓の地を恢復せんことを欲したり。ウルバン二世紀元後一〇九一—一〇九九に至りて遂に其の目的は達せられたり。蓋し法王等は基督教國の間に行はるゝ累世の戦亂を一掃するの手段一に回教徒に向つて戦争を宣告し以て基督教諸國の一致平和を成就せしめんことを欲したり。従前はビーター・ハーミット陰者のビーターといふといふ僧ありて東方に巡禮し親しく回教徒の爲めに基督教徒等が虐待せらるゝの情狀を自撃し來りて之を法王ウルバン二世に説き遂に十字軍を起さしめたりと傳説せられたれども近時史學研究の結果によれば事實は其の反對にして法王こそビーターを刺激して諸方に遊説せしめ遂に十字軍を逃起せしめたる發頭人なりと云ふ。ウルバン二世は佛蘭西のクレルモンに教會の大會を

催し、紀元後一〇九五—一〇六〇ビーターと共に會衆を鼓舞し基督教徒等が漫りに干戈を弄し相殺戮するの蠻習を責め、汝等若し血を流さんことを欲せば汝等の手を異教徒の血に染めよ……地獄の兵卒等よ、活ける神の兵卒となれよと勸告したり。是に於て十字の記號を以て從軍者の記章となせよと命じ翌年八月十五日を以て十字軍出發の期日と定めたり。之を十字軍の始とす。

二百餘年間の十字軍 クレルモン會議の結果によりて法王は歐洲列國の上にて平和を命じ、此聖軍に従事する者の領土を侵略することを禁じ、從軍中負債者の義務を免し、又た犯罪者の特赦を與ふるとを宣告したり。歐洲全大陸の諸國は十字軍の聲にて満たされたり。訓練なき無敵の信徒はビーター・ハーミットを將とし、期日に先んじて出發したりしが、彼等が途中に於て殆んど皆滅亡したり。次ぎに騎士の軍凡そ二三十万人、ロレン公ゴッドフリー、ノルマンデー公リチャード王の子等之に將として陸路軍を發し、途上小亞細亞に於て敵軍を破り、非常の艱苦を経てパレスチンに至り、エルサレムを陥れたり。紀元後一〇九九年。是に於てゴッドフリーを立て、君主となし、エルサレムに封建的王国を建設したり。彼れ王と稱

せずして單に聖墓の保護者と號したり。之を第一十字軍と爲す紀元後一〇九六。第一十字軍は専ら諸侯以下の從軍にして列國の君主は之に赴かざりしが四十五年の後回教徒の勢力猖獗にしてエルサレムの王國孤立し將に滅亡せんとするに至りしかば聖ベルナルド再び十字軍を唱へ、獨逸王コンラッド三世佛蘭西王ルカ七世各々軍を率ゐてパレスチンに赴きたり。然れども全く失敗に屬して止みたり。之を第二十字軍となす紀元後一一四七。

爾後二十一年にしてエチプトにサラチンと云ふ回教徒の名將起りエチプトをして再びバグダッドのカリフに服従せしめたり紀元後一一七一。次にエルサレムを略し紀元後一〇七一殆んど全パレスチンを侵畧したり。是に於て歐洲諸國また震動し第三十字軍は起れり紀元後一一八九。

聖羅馬帝國の老皇帝フレデリク一世も此の十字軍に掛きしが途中小亞細亞に於て不幸なる溺死をなせり。遂に佛國王フリップ二世及び英國王リチャード一世共に海上より赴きしが紀元後一二九〇二人心合せずしてフリップは先きに歸へり、リチャード一人止まりて獅子王の勇を振ひしかども遂にエルサレムを恢復するこ

と能はざりき。

第四の十字軍紀元後一二〇二は奇異なる結果を生じたり。是よりさき東羅馬帝國は十字軍の却て己れに利あらざるを察し、屢々行軍者の妨害をなしたり。此の時に當り謀反者ありて東羅馬皇帝の位を偷みたり。元來第四十字軍は法皇インノセント三世の首唱に出で、先づ埃及を略して以てパレスチンを恢復せんとするにありしが十字軍は轉じてコンスタンチノーブルを陥れ紀元後一二〇三、フランダース伯バルドゥインを立て、東羅馬帝國の皇帝となしたり。然れども東人は西人の支配に服するを好まず、後遂に帝位并に帝都共に東人の手に歸しれり紀元後一二六一。此の如く第四十字軍は基督教國の爲に何の爲す所なかりき。

聖羅馬皇帝フレデリク二世は第五十字軍紀元後一二二九に於て埃及のムルタツ、カミールと條約を結び、一時エルサレムを恢復するとを得たり。然れども一千二百四十四年聖城は再び回教徒の爲に陥れられ、爾來遂に基督教徒の手に恢復せられたることなし。同一千二百四十八年佛國王ルカ九世第六十字軍紀元後一二四八をして埃及を征し、失敗して捕虜となり、次に彼れ及び英國王エドワード一世第七

十字軍紀後一二七〇を起して佛王は亞弗利加のチユニスを征し遂に此地に病死したり。英國王エドワード一世當時皇太子はパレスチンに赴きナザレを略し埃及の

スルタンと和を結んで歸國せり紀後一二七二

第四十字以後は皆な小十字軍にして失敗多く成功少かりしが遂に一千二百九十年に至て基督教徒等がベレスチンに保有したる最後の要所たりしエークルさへも回教徒の手に歸し西歐諸國亦た十字軍を起すの勇氣なきに至れり之を十字軍の最後とす。

歐洲に於ける十字軍 十字軍は元來回教徒征伐の目的なりしが後には凡て基督教國の内外を問はず敵を征伐するの名稱として用ひられたり。紀元後一千二百七年頃佛國の南部アルピ市を中心として羅馬法王の節度に従はざる一種の基督教徒新教以前の邪教徒現はれ、ツルース伯レーモンド之を獎勵したり。法王インノセント三世佛國王及び北部の貴族に命じて之を征討せしめ非常の慘狀を極めたる後遂に之を滅したり紀後一二二九。

東北歐羅巴バルチック海濱に普魯西人、リスキエニヤ人及びリウオニヤ又たエスソニ

ヤのフィン人猶ほ依然として異教を奉じ基督教に化せられざりき。是等諸人種の爲に露西亞人及びポーランド人はバルチック海に通ずるの道を遮ぎられたり。

紀元後千二百三十年頃東方より歸りたる獨逸僧兵は傳道と征服とを兼ねて一部は普魯西に移住し一部はリウオニヤに移住したり。其の戦争は十字軍と見做され諸方より往て應援する者多かりき。普魯西は遂に干才によりて基督教に化せられたり紀後一二八三頃。

英國及び佛國 ノルマンディー侯ウイリヤム一世英國を征服せし以來紀後一〇六六

英佛の關係甚だ錯雜となり北佛の大諸侯たるノルマンディー侯は一方に於て佛國王の臣下たると同時に英國に於ては獨立の王たりき。佛國に於てはヒュー、カベツト、カヘイ、全國の王となりし以來紀後九八七數代の間王權微々として振はず其の權力は僅かにフランスヤ侯たるに過ぎずして全國は殆んど大諸侯の獨立に放任したり。英國王ヘンリー一世の後男子なくして一時其の甥なる佛蘭西ブルワー伯スチヴン王となり次にヘンリー一世女系の孫オンズー伯ヘンリー立つてヘンリー二世となりぬ紀後一一八五。此ヘンリー二世は父母の遺産によりて英國の外

に第一ノルマンデーを領し、ブリタニー侯を臣下となし、第二、オンズー及びメインの二州を有し、又た其妻エリーノルは南佛大諸侯の相續者たりしが故にアタイテーン(ポアツ、ギユエーヌ及びガスコニーの三州)を領有したり。彼は又た愛蘭土の君主にして同時に格格蘭の王を臣下たらしめたり。是に於て彼はスコットランドよりピレニースに跨がる大領土を有し、其の佛國に於て領有する所の土地は佛國王が自から直轄する所の領地よりも大なりき。佛國は現今八十七縣に分かるゝことなるが、其中四十七縣は英王ヘンリー二世に屬し、佛國王は僅かに其の二十縣を直轄したり。然るに佛王ロウエーカベットより七代にしてフィリップ二世一八〇一—一二二三一現出し、不世出の才を以て大に國內統一の政策を施すことを得たり。彼れの時代に當り英國にはヘンリー二世の子リチャード先づ立ち次に弟ジョーン王九一—一二一六と成るに及びて國民その虐政に苦しみしかば佛王フィリップ二世は之に乗じて遂にノルマンデーを沒收することを得たり一二〇四。但し南方のアキテーンは北部佛蘭西と利害を異にしたりしが故に猶ほ英國の王に服屬することを甘じたり。然れどもフィリップ二世の孫ルイ九世一二一六—一二七〇一

○二七の時には佛國の大半を直轄し、其の領土は英國海峡、大西洋及び地中海に貫通せり。而して其弟チャールス(佛、シヤル)はプロウオンス伯となりしより佛國は従前聖羅馬帝國に屬したるバルガンデーに於て勢力を得るに至れり。

西班牙及び葡萄牙

紀元後七百十二年西班牙に於けるウイヨゴス人四三〇の

王國回教の軍に顛覆せらるゝや一人の貴族ヘラキウス(一名ベレヨ)紀元後七七八—八一七三六西北隅アスチリアス山中に割據し、背後には海を控へ、ヒョーンを首府として基督教の小國家を維持したり。是れ則ち近世西班牙王室の祖にして史家之をアスチユリアス王國と稱す。後都をオウイェードに遷し紀元後七六〇後又た遂にアスチユリアスを翹えて南進し、レオンに都するに及びて紀元後九一〇後之をレオン王國と稱す。是頃その東北にサンチヨール一世ナワール王國を起し紀元後九〇五後サンチヨール三世紀元後一〇〇〇一三五は其子フェルデナンドを封じてカスチールの主となし紀元後一〇三三後一又た次子ラミロを封じてアラゴンの王と爲したり。之をカスチール及びアラゴン王國の始とす。後レオン王ベルミュート三世男子なくしてカスチール王フェルデナンド一世その婿たるを以てレオンを併せたり紀元後一〇三七後一。レオン、カスチール兩王國

の王アルフォンソ六世は遂に西ゴス王国の舊都トレードを恢復して之に都したり紀元後一〇八五。トレードの役其の女婿バルガンデー伯ヘンリー大に功あり五年の後ボルチュガルを畧し遂にボルチュガル伯爵に封せられたり紀元後一〇九五。之を葡萄牙の起原となす。ヘンリーの子に至て自から王と稱したり紀元後一〇四〇。是に於て基督教の四王国は南進して回教國に逼迫したりしが第十三世紀の始亞弗利加より回教の援軍到來し法皇インノセント三世は歐洲列國に西班牙を助くへき旨を諭し又た公共の祈禱を命じ西班牙半島に戦ふ者に赦罪の約を爲したり。カスチール王國益々回教徒の地を侵しフェルチナント三世紀元後一二二一、コルトワセウイル及び其他の地を略したり紀元後一三六四。是に於て回教徒は僅かに南方クラナダ王國のみとなれり。然れども尙ほ二百五十年の間之を維持したり。蓋し是後クラナダ王國と境を接したるはカスチール王國のみにして基督教諸國の間に一致の運動を缺き又た國王賢明ならざりしが故なり。

シ、リー王國 紀元後第九世紀の後半期伊太利のシ、リー島は回教徒に侵畧せられたりしが遠征を事として敵を恐れざる北部佛蘭西のノルマン人は第

十一世紀の間南部伊太利に侵入し嘗て東羅馬皇帝の所領したりし土地を殆んど皆不_レ得有したり。ノルマンデー侯ウイリヤム一世が英國を征服せるに先だちて彼等は遂にシ、リー島に渡りて其の土地を回教徒の手より恢復したり紀元後一〇六六。是に於てノルマン人は南部伊太利及びシ、リーを領有し遂にローヂャー二世に至りてシ、リー王國と稱したり紀元後一三〇〇。シ、リー王國は羅馬法王に忠實にして常に聖羅馬皇帝に反對したりしが皇帝フレデリク一世はローヂャー二世の女を以て其子ヘンリー六世紀元後一一九七の妻となせしよりローヂャーの死後シ、リーは遂に皇帝の有に歸しヘンリー六世の子に有名なる皇帝フレデリク二世出て其の治世に於てシ、リーは最も繁榮を極めたり。

封建制度及ひ士風 十字軍の盛なるや羅馬法王は恰かも其の大元帥にして歐洲列國の人心を鼓舞したり。之が爲に十字軍の間法王の權勢は其の絶頂に達したり。天下の帝王も法王の催促に止むなく十字軍に従ひ歐洲列國亦た法王の意志に反抗する者なかりき。之と同時に歐洲の士風も亦た其の全盛を極めたり。

封建制度は中世の第一期に於て既に發生し第二期に於て歐洲一般に行はれたり。元來羅馬帝國の時代より皇帝は戰時兵役に従ふの條件を附して屢々邊境の土地を人民に附與したり。羅馬帝國の衰ふるに當り地方の小地主は中央政府の保護を以て豪族に依頼し自家領地の所有權を捨て、其の使用權のみを保存したり。又た土地なき人民も地方の豪族に依頼し其の保護によりて生活するの風習を生じたり。羅馬帝國は之を禁せんと欲して遂に禁ずること能はざりき。是等は羅馬帝國の中より來れる封建制度の原因なる可し。

又たチュートン民族の間には古來勇將の下には數多の壯士附從し戰場に於て死生を共にし戰勝の時には武將は其の部下の兵に賞與を與ふるの風俗行はれたり。彼等が羅馬帝國を分割するに當りてや彼等は兵士を賞するに土地を以てし且つ一旦緩急あるときは各々義務を盡くすへきの約を爲さしめたり。是に於て封建君主の關係成立し各地割據の時代に於て社會に唯一の連絡を結ぶ所の制度となれり中央政府未だ成立せざる時若くは既に瓦解したる時には最も自然にして且つ便利なる制度なりとす。即ち封建制度とは地方の大地主に其の領土内にあ

る人民を管轄せしむるの制度にして土地の所有權に政治上の權利を附帶せしめたるものなり。謂はば公法と私法との混淆にして道理上不都合なりと雖ども交種不便にして中央政府成立しがたき事情の際には甚だ適切なる制度なりと言はざる可からず。

羅馬帝國の瓦解は封建制度を要するに至りし第一の原因にして即ち遠因なりとす。次に紀元後第八世紀の後半期より第九世紀の初年にかけてシヤレマーン帝の帝國又た分裂したるは封建制度を一般ならしめたる第二の原因にして即ち近因なりとす。大帝の帝國分裂するに従つて各地を分轄したる地方官は各地に土着し其の土地と政權とを漸次世襲するに至れり。

中世史第三期の概括

此の時期に於て聖羅馬帝國も東羅馬帝國も共に衰微に陥したり。而して皇帝の權威衰ふるに従つて法王の勢力は益々熾なりき。回教徒の東西二帝國も亦た衰頹の運命に陥れり。西班牙に於ける回教國は分裂して數多の小國となり遂にクラナダのみ残れり。而して東方の回教國は土耳其人に其權力を奪はれ又た蒙古人の爲に侵襲せられたり紀元後一〇二五八。蒙古人は一

千二百六年センギスカンその酋長となるに及んで亞細亞及び歐羅巴の二大陸を
 席捲し其孫パツトはポーランド及び獨逸の境に至るまで歐洲の土地を侵略した
 り紀元後一〇四。當時露西亞は全くカザン東露西亞の蒙古人に服屬し千四百八十年
 まで獨立すること能はざりき。

基督教國は西方に於ては西班牙の大部分及びシ、リ、リを回教徒より恢復したれ
 ども東方に於ては東帝國の領土を土耳其人に侵略せられ又露西亞を蒙古人に
 侵襲せられたり。西班牙に於てはカスチール王國主として回教徒に當り又たゴ
 ールに於てフランシヤ候漸次全國を支配するに至り漸やく統一の傾向を生じた
 り。之に反して獨逸及び伊太利に於ては聖羅馬帝國の皇帝漸次其の實力を失し、内
 獨逸を統一する能はず外、伊太利を征服する能はず、獨逸に於ては諸侯伊太利に於
 ては市府各々獨立割據の勢を成すに至れり。北部歐羅巴に於ては獨逸の僧徒普
 魯西を征服して噠と對峙し稍やく歐歐洲列國對立の形勢を生せんとしつゝありき。

第四章

中世の末期

紀元後一四九二—一四九七

十字軍の結果

羅馬帝國の瓦解、十字軍及び佛國大革命は恐らくは西洋史

上の三大事件として算へらるべきものならん。十字軍は中世の暗黒を破り歐洲
 をして近世の文明に進ましむる回轉の機會を與へたり。之が爲に一時羅馬法王
 の勢力を甚しからしめたれども其の永遠の結果は却て歐洲人民をして宗教上の
 迷信を脱せしむるに至るの端を開きたり。十字軍の刺激は督基督教徒が回教徒を
 恐むこと蛇蝎の如くなるの迷信に出でたり。然れども其の結果は基督教國の人
 民をして東の方希臘文明に接し又回教徒の開化を目撃し以て彼等を憎惡する
 の迷信を薄弱ならしめ遂に十字軍の振ふ能はざる事情を生せしめたり。之が爲
 に人心は廣くなり思想は大になり、軍隊及び貨物の運搬は一時に貿易を奨励し歐
 洲人は支那印度に往き、蒙古人亦た西洋に來り、歐羅巴と極東との交通は此の時代
 に起り、新地發見、遠洋航海の氣運漸く開けんとするに至れり。

十字軍の効果は一時歐洲の士風を振起せしめたりと雖ども遂に其の封建割據の
 形勢を動かして君主統一の大傾向を促がしたるの成績甚だ大なりとす。蓋し歐
 洲列國の諸侯は最早や歐洲に於て領土を擴張するの餘地なかりしかば十字軍起
 るに及び争ふて其の領土を資却し以て遠征の資となし以て東方の大諸侯たらん

ことを夢想したり。此の如くして諸侯の領土は多く消滅して或は君主に歸し或は市民の手に落ちたり。是よりして第一文學復興科學再生第二貿易發達市府勃興第三列國興起國民統一第四羅馬法王教權衰微の大勢となり以て近世史を産み出すと成れり。

聖羅馬帝國の衰微

前に述べたる皇帝フレデリク二世紀元後一二五〇の後

聖羅馬帝國は次第に衰微し或は獨逸の王となりて皇帝の冠位に即かざる者あり或は皇帝の位に即きて更にも更に伊太利には實力を有せざりき。バルガンデーの多分は佛蘭西に併合せられ獨逸に於てすら皇常の権力は益々微弱となりぬ。紀元後一千二百五十六年より同七十七年まで大空位の時代となり遂に全國の王として仰がれたる者なかりき。英國王ジョンの弟リチャードはライン地方に於て王に選まれ西班牙のカスチール王アルフォンソ十世は又た他の諸侯によりて王に選まれたり。而して伊太利に於ては羅馬法王は皇帝の權威を忌みフレデリク二世の庶子マンフレッドをしてシ、リーの王たらしむるを肯んぜざりき。元來同王國は建國の始より羅馬法王に服屬したりしが故に法王ウルバン四世紀元後一二六

二六五はシ、リーの王位を佛國王ルイ九世の弟なるオンズー公チャールズに與へたり同三二〇。是に於て彼はマンフレッドを破りて遂に全シ、リー王國を得たり紀元一〇六六。然れどもオンズー公チャールズの勢力又た盛なるを見るや法王は更に之をアラゴン王ヒーター三世に與へたり。一千二百八十八年の條約によりて

「アルズ王國はオンズー公の子テヤールズに與へシ、リー島はアラゴン王の第二子ジュームスに與へられ是れより伊太利は佛人西人競争の地となり又た帝國の領有に非ざりき。

當時獨逸の列侯は成るべく微々たる諸侯を擧げて皇帝となすの政策を取り遂に瑞西の小諸侯ハプスブルグ伯ルドルフを以て皇帝となしたり紀元後一三〇〇。彼は賢徳の君主にして頗ぶる帝國の秩序を恢復したり。彼は其子アルベルトに奧地利の公爵領を與へ大領地を得有せしめたり。是よりハプスブルグ家と云へば専ら奧地利公爵を意味し異名同義の語として用ひらるゝに至れり。ルドルフ一世の後にはナッサウ公アドルフ帝位に擧げられ紀元後一二九二次にルドルフの子アルベルト一世當撰し紀元後一二九八爾後六帝更替選舉せられしが其中四帝はルクセムブルグ

家に屬し、就中チャールス四世紀元後一三七八は金詔を出して帝國の憲法を確定したり紀元後一三五六。其の詔勅書には金器に入れたる印章を附したるが故に金詔の名あり。之によりて皇帝選舉の權は七人の諸侯に歸し、其中三人は大監督にて僧侶に屬したり。之を司撰候と稱す。皇帝の選舉はフランクフォルトに於て、而して其の即位式はエークスラシヤヘル獨アヘンに於てす可しと定められたり。是より皇帝選舉の紛議を免かるゝことを得たり。ルクセムブルグ家の後、埃地利家のアルベルト五世選まれて皇帝アルベルト二世と稱したり紀元後一四三九。當時埃地利は既に太公爵と稱し、列公の上に位したり。是より後三百年の間、皇帝の位は常に埃地利の太公爵に存し、又た二帝を除くの外、一千八百六年大ナポレオンの爲に聖羅馬帝國全たく瓦解するの時に至るまで、世々ハブスブルグ家は選まれて皇帝の位に擧げられたり。蓋し第十五世紀に於て皇帝の實力は既に諸侯の權を抑ゆるに足らず、故に之を代々ハプスブルグ家に與ふるも、以て諸侯の患となすに足らず、却て東方には土耳其人の勢威益々猖獗なりしが、故に埃地利の太公を皇帝に擧ぐるは此の強敵を防ぐに便なりしが爲なりとす。

羅馬法王の蒙塵

前期に於ては法王の威勢は皇帝を壓し、法王インノセンツ三世紀元後一一九八は法王と日輪に比し、皇帝を月輪に比し、流石の皇帝フレデリク二世も遂に屈服するの止む可からざるに至りしが、中世の末期に於ては時勢全く一變し、法王却て俗人の爲に大汚辱を蒙むることとはなれり。蓋し聖羅馬皇帝等は空しく羅馬帝國の虛名に眩惑して、近世國民的國家の發達しつゝある事實に心附かずして、頻りに伊太利を征服せんと爲したりしが、故に法王は伊太利國民を後楯にして、皇帝に反抗し、遂に能く其の勝を制することを得たり。然るに法王等又た此の事實に暗くして、猥りに之を法王の神權と信じたりしかば、彼等も亦た同一の原因によりて大蹉跌を爲すに至れり。法王ボニファース八世紀元後一二三〇は大に法王の權威を佛蘭西に振へんと欲して、其王フィリップ四世紀元後一二八五が僧侶に税を課するに反對し、之と大衝突を惹起したりしに、フィリップ四世には全國民の同情ありて、聖羅馬皇帝とは同日の輪にあらざりき。ボニファース八世大に失敗し、憤懣して死し、其後佛人クレメント五世法王となりしより、凡そ七十年の間、七代の法王は羅馬を去りてアルプスの西なるアウインヨン

に住し九一三〇。全く佛國の勢威に屈從したり羅馬人は此狀態に堪ゆる能はざりしが故に遂には二個の法王ありて一はウルバン六世と稱し羅馬に住し一はクレメント七世と稱しアウインヨーンに住し三七八。英國獨逸、ハンガリー、ホヘミヤ、和蘭及び伊太利は羅馬の法王を戴き、佛國、西班牙、蘇格蘭、サウオイ、及びローレン地方はアウインヨーンの法王を戴き、歐洲列國二大黨派に分かれたり。是より二派の法王相對峙して系統を繼ぎ紛争數十年に涉りしかば此の紛議を解く爲に教會の大會は伊太利のヒサに開かれ同時に二個の法王を廢して更に新法王を選舉することに決したり四〇九。然るに其結果は却て三人の法王を生じて紛議は遂に解けざりしかば更にコンスタンス四一五に大會を開きて新法王マルチン五世を立て他の三法王を廢するを爲したり四一五。是等の失態の爲に法王は大に歐洲の民心を失し其の威權は痛く衰へて又た昔日の如くなる能はざりき。當時英國にはマヨン、ウイツリク、クリフと云ふ學僧ありて羅馬法王に反對し新説を主張したり紀元後一三三六。次にホヘミヤの僧侶ジョーン、ハス其説を繼承して法王の權威を否定し大に改革を唱へたりしが此のコンスタンスの大會に於て異

端の宣告を受け火刑に處せられたり紀元後一四五。是れ蓋しマルチン、ルーテルが新説を發起する百年以前の事にして彼等は實にルーテルの先驅に外ならざりき。

英佛百年戦争

紀元後一三三九—一四五三

英佛の關係は前期に於て既に衝突の端を開

きたりしが英王ジョーンの死後其子ヘンリー三世位に擧げられ其子エドワード一世紀元後一三〇七—一三〇七王となるに及びて統一の志厚く大に民心を收攬し市民の代表者をして諸侯及び僧侶と共に國會の要素たらしめたり紀元後一三〇七。之を英國議會の始とす。蓋し彼は常に蘇格蘭を併せて統一を完全ならしめんと欲し而して蘇國は佛國に依頼して内外英國の患を爲したればなり。又た佛國王は累代其の國家を統一せんとするに當り英國王は猶ほアキテーンの諸侯にして容易に佛王の節度に従はざりしが故に常に蘇格蘭と相應じて英王を苦しむるの政策を用ひたり。佛王フィリップ四世死するに及びて三子交々位に即きしが皆な男子なくして死したり。エドワード一世の子エドワード二世紀元後一三三七—一三三七は佛王フィリップ四世の女を娶りエドワード三世紀元後一三三七—一三三七を生みたり。是に於て佛國にては女子に王位相續の權なからしむるサリク法を主張しフィリップ四世の甥ヲ

ロア家を立て、王となしフィリップ六世と稱したり紀元後一三五〇。是に於て兩國王の大衝突を生じたり。蓋し名義は英王が佛國の王位を要求したるに在りと雖ども其の實は兩國ともに國內統一の大問題を解決せんとするに當りて英國王は佛國に領土を有して佛國の統一を妨げ又た佛國王は常に蘇格蘭の王を煽動して英國内部の統一を妨けたるによるなり。是より百年間の戦争となり第一期はクレシーの役紀元後一三四六及びボアチエーの役紀元後一三五六一ありて英軍大勝利を得エドワード三世の皇太子エドワードは兩役に武名を加し世に其の武裝によりて黒太子と稱せられたり。ボアチエーの役には佛王ジョン紀元後一三六四及び其子フィリップ捕虜となれり。ブレチーニーの條約紀元後一三六〇によりてエドワード三世は佛國の王位を要求するを止め其の代りに佛王と君臣の關係を絶ち全たくアキテーン及びカレーの主權を得有し以て第一期の局を結びたり。

然るに佛國王チャールスシャル、五世紀元一三六〇恢復の志厚く戰備已に成るを以て前條約を破毀し、百年戦争の第二期となりぬ紀元後一三六九。彼は智にして狼りに英軍と野戦に於て争ふとなく、空しく奔走に勞れしむるの策を用ひたり。英

王エドワード三世死して黒太子の子リチャード二世位に即き紀元後一三九九。又た佛王チャールス五世死して幼年のチャールス六世位に即き紀元後一四一三。戦争は墓々しきことなかりき。然るに英王ヘンリー四世紀元後一三九九一期の祖元元は從兄弟の關係あるリチャード二世を廢し尋て之を殺して英國の王となり、其子ヘンリー五世紀元後一四一三位に即き大に外征の功を以て僭奪の罪を償はんと欲し鋭意佛國との開戦に着手したり。アザンクルの役紀元後一四五五一更に英國の大勝利となりて佛軍大敗し遂にツルウアーの條約によりてチャールス六世の死後英王ヘンリー五世は佛王となり以て永久に英佛を合併すべきことと決定したり紀元後一四〇四。之を百年戦争第二期の終局となす。

然るに英王先づ死し八月尋て佛王亦た死し十月紀元後一四二二。巴里地方に於ては英王の子ヘンリー六世を以て佛王と仰ぎ、南部に於てはチャールス六世の子チャールス七世王と認められたり。是より先き英國はエドワード一世の政策によりて國民的統一大に進み、貴族平民の別なく國家の義務に服役したり。百年戦争は英國に於ては實に國民的戦争にして其の兵制は既に封建の兵制にあらざりき。然る

に佛國にては依然として封建の兵制を用ひ平民は歩兵にして輕侮せられ、何の用を爲さず而して騎士等は猥りに武勇を持ち先驅の功名を得んと欲して常に英軍の爲に破られたり。護國の任務を負擔したる貴族等其任に堪へずして國家は永年外兵の爲に蹂躪せられ、百姓其の苦に堪へざりしかば國民的精神は遂に農民の一女子ジャンダークをして神託により三軍を指揮しオルレアンの圍を解き紀元一四二尋で佛王チャールス七世をしてライムに於て即位式を擧げしめたり。彼女は後年戦利あらずして捕虜となり英軍の爲めに火刑に處せられたり紀元後一四三。然れども佛國には既に國民的精神上一般に成立し英軍益々利あらずして佛軍はマールデーを恢復し紀元後一四五〇佛王チャールス七世は遂に南部に於ける英國の根據地たるポルドーを陥るゝに至れり紀元後一四五三。之を百年戦争の終局となす。

百年戦争の結果 百年戦争の失敗により英國には外征の兵一時に歸り來り而してランカスター朝の信用衰へ同むくエドワード三世の子孫たるヨルク家王位を窺視し爰に薔薇戦争の内亂を醸したり紀元後一四八五ランカスター家は赤薔薇の記章を用ひヨルク家は白薔薇の記章を用ひたるが故に此名あり。西人

之を我が源平二氏の争に比す。時は正に本朝應仁の亂に符合せり。ヨルク黨遂に勝を得てエドワード四世位に即き紀元後一四八三以てヘンリー六世を廢し且つ之を殺さしめたり。エドワード四世死して後其子エドワード五世位に即きしかども幼弱にして叔父リチャード之に代り且つ遂に之を殺し自から王となれり。之をリチャード三世となす紀元後一四八五。是時に當りランカスター家は擧族殆んど亡滅したりしが僅にリッチモンド伯ヘンリー、チユードルのみ逃れて佛國にありしが遂に兵を擧げて英國に入りリチャード三世を破りて敗死せしめ國會の承認によりて王位に即くとを得たり紀元後一四五〇。之をチユードル朝の祖ヘンリー七世と稱す紀元後一四五〇。彼はエドワード四世の遺女を娶り爰に兩王室の確執を解き薔薇戦争の禍亂を收め以て英國を平和に統一するとを得たり。佛國は一時百年戦争の爲に全國英兵の蹂躪する所となりしを是より先き佛國人民は未だ封建割據の結果國民的精神なかりしが是によりて始めて近世の佛國となることを得たり。チャールス七世の治世中紀元後一四六二に常備軍は設置せられ平民は喜んで軍資を王に給與し以て佛國をして歐洲第一の中央集權國たらしめたり。百

年戦争の失敗は封建貴族の失敗にして之れが爲に平民の勢力は認識せられ國家は貴族のみによりて存する能はざるの事實を證明したり。チャールズ七世の子ルイ十一世紀元後一四八三に至て大に諸侯の領土を收めて王室に歸せしめ以て諸侯の勢力を減殺し、^①獨立の諸侯は僅に一のプリタニイ侯あるのみとなり、佛國は國民的統一の程度に於て列國第一の位置を占むるに至れり。是れ佛國統一の結果によりて遂に近世の國際的戦争及び國際的政治を生み出すに至る所以なり。此の如く百年戦争の結果は一時佛國及び英國の禍となりしも永久には英佛が近世的國民となるに至る必要の路程なりしなり。然かも兩國の制度に於ける結果は正反對に出でたるは奇と謂ふ可し。英國にては百年戦争中王室は益々一般人の後楯を要し、王は軍資を求むる爲に國會に依頼するの必要ありて國會の權力は次第に増長したり。始めは請願權のみを有して立法權を有せざりし下院は遂に立法協贊の權を得紀元後一三〇二一而してヘンリー六世の時より常に法律案を起草して提出するの權利を得たり。薔薇戦争の際兩王室の争によりて國會は王位を確認するの權利あるの實例を發達せしめ將來主權議會にありと言はしむるに至る

の端緒を開きたり。佛國に於てもフィリップ四世羅馬法王と衝突するに當り國民の後楯を要するが故に遂に市民の代表者をして貴族僧侶と共に佛國議會の一要素たらしめたり紀元後一三〇二。然るに百年戦争の際敵兵常に國中にありしが故に佛王は議會を召集して之に依頼するに遑なく且つ常備兵を必要となしたりしが爲めに國民は遂に永久土地税を王に許與したり。之よりして佛王は遂に國會を召集するの必要を見ざりしが故に佛國は遂に君主獨裁制となり、議會制度を發達せしむること能はざりき。

西班牙の統一

前章に述たるが如く紀元後一千二百三十七年以來西班牙半島に於ける回教國は僅に南方のグラナダ王國のみなりしが半島に於ける基督諸國不一致の結果此のグラナダ王國は第十五世紀の末に至るまで其位置を維持したり。蓋しアラゴン王國は之と境を接せざりしが故に往々佛伊の方面に手を出し専ら回教退治の事に従はざりき。第十五世紀の半頃ジョン二世位に即紀元後一四七九。内亂の爲に國勢振はざりき。然るに其の第二子フェルナンドがカスチール王ヘンリー四世の妹イザベラと婚を結びしことより紀元後一四六九端

なく西班牙統一の盛運を開くに至れり。當時カスチール王ヘンリー四世紀元後四七四一王たりしが貴族等は其妹イザベラを立て、世子となさしめたり。然るにイザベラは王の許可を待たずしてアラゴンの皇子フェルヂナンドと婚せしかばヘンリー四世は己の女マリアナを以て世子たらしめんと欲し内亂を生じたり。ヘンリー四世の死後葡萄牙王は姻戚の關係より干渉してジュアナを王たらしめんとしたりしがイザベラは夫フェルヂナンドの助力によりて遂に勝を制しカスチールの女王たることを得たり。而してアラゴン王ジョン二世死してフェルヂナンド二世は即ち其の位を繼承したり紀元後一四七〇。是に於て夫婦兩國の王となりて共に聰明英智の君主たりしかば十年間銳意グラナダ王國を征伐し遂に之を滅して西班牙統一の基を成就せしめたり紀元後一四九三。西班牙に於ける回教國は七百八十二年にして遂に亡びたり。

東羅馬帝國の滅亡紀元後一四五三 第十五世紀の間西方に於て回教徒は西班牙より放逐せられつゝありしと雖も東方に於て彼等は基督教國を蝕蝕し遂にコンスタンチノープルを陥るゝに至れり。十字軍の際東羅馬帝國は益々衰微して一

時は西歐人の爲に占領せられたり紀元後一二六〇。第十三世紀の後半期よりオスマン一世といふ英傑土耳其人の中に起りて其の諸種族を糾合し漸次東羅馬帝國の諸州を侵略し紀元後一千三百四十三年歐洲に進入し同六十一年にはアムラツト一世アドリアノープルを陥れて其の首府となしたり。一時蒙古人チームールレハルの襲來によりて其の銳鋒挫折し紀元後一四〇二。之が爲にコンスタンチノープルは危急を免るゝとを得たり。然れども土耳其人の勢力又た熾にしてモハメツド二世は二十万の兵を以てコンスタンチノープルを圍み遂に之を陥れたり紀元後一四五五。最後の皇帝コンスタンチンパレオロゴス勇戦して之に死し十万人の人口中四万は殺され五万は奴隸と爲されたり。羅馬皇帝コンスタンチンが此の地に皇都を定めし以來一千百二十餘年にして遂に異教徒の手に落ち彼の大帝か基督教の爲に建設したる聖ソフィアの堂に毀へたる十字架は除去せられて新月形之に代り今に存するとはなれり。當時土耳其の威勢も亦た盛なりしと謂ふ可し。歐洲之が爲めに震動し一時伊太利に於ては十字軍再興の聲ありしに拘はらず列國悉は一兵を動かしてコンスタンチノープルを恢復せんともなさざりしは中世の

宗教心既に衰へ而して歐洲列國未だ近世の國民的精神十分發揮せられざりし過渡の時代なりしが爲めなりとす。

亞非利加廻航及び新世界發見

第十四世紀の末より葡萄牙はカスチール王國に遮ぎられて亦たグラナダ王國と境を接せざりき。其の結果葡人は漸次亞非利加の沿岸に着眼しムーア人の根據を衝かんと思想を發生したり。ムーア人は北亞非利加の土人にして常に西班牙に於ける回教徒の勢力を支持したりき。是より先き十字軍の結果東方との交通開けしより支那に於て夙に發明せられたる羅針盤第十四世紀の始めより西洋に行はれ航海の事業大に發達するに至れり。然るに第十五世紀の始めより土耳其人の勢力益々熾にして東方との交通將さに困難ならんとするに當り恰も葡人は亞非利加廻航の大業に従事したり。紀元後一千四百十五年葡王ジョージ一世紀元後一三三八—一四三三亞非利加の北岸に遠征を試みセウータを略したり。歸路に於て王の第三子ヘンリーヘンリー航海の熱情を發し歸來ウイセントとの岬に居を定め四十餘年間こゝに天下の航海業者を集め亞非利加を廻航し直ちに印度に通ずるの大業を開始したり。是より國民學て此

の大業を贊助し遂に皇子ヘンリーの死後廿三年にしてバルソロミュー・ディアズ始めて亞非利加の南端に達することを得たり紀元後一四八六。葡王ジョージ二世印度に達するの望已に成ると稱して之を希望峰と名けたり。

是時伊太利ゼノアの人コロンパス葡萄牙に移住して航海の業に従事したり。夙に天文地理の學を修め古來アリストートル及び其他の希臘人が唱道したる地球説を確信し又た希臘羅馬の先哲等が地球説に基きて西より印度に達することを得べしと豫言したることを信じ葡人が數十年の間亞非利加の廻航に着手して未だ成功せざるを迂となし葡王に西航して直ちに印度に達するの策を獻じたり。葡王ジョージ二世その策を是となし然かもコロンパスの功を奪はんと欲し竊かに他の葡人をして西に航せしめんことを企てたり。コロンパス王の信なきを見て去りて西班牙に往きカスチール女王イザベルラ及びアラゴン王フェルナンドに訴へたり紀元後一四八五。然れども當時兩王はグラナダ征討の事急にして其の資を給する能はずコロンパス大志を懷きて尙ほ七年の間グラナダ征討の終るを待ちたり。時なる哉紀元後一千四百九十二年の一月グラナダ落城したりしかば彼

は直ちに女王の許可を得て其の年八月三艘を装ふてパロス港を出て十月十一日遂に西印度の一島に到着したり。是れ則ち新世界発見の端緒にしてコロンブスは之を印度と信じたり。後年その誤認發見せらるゝに及びて之を東方の印度と區別せんが爲め西印度と稱するに至れり。

文藝復興

羅馬帝國の晩年文學既に衰微しつゝありしに蠻人侵入し帝國瓦解するに及びて古代の科學文學哲學共に地に落ちたり。蠻人は武を尙んで學を輕んじ僅かに僧侶のみ幾分の學識を保存したり。是れ暗世の稱ある所以にして第七世紀は其の最も暗黒なる時代なりき。第八世紀の後半期には大陸に於てはシヤレマーン大王紀元後七七一—八四一起りて學校を興し文學を奨励し又第九世紀の後半期英國にはアルフレッド大王紀元後八七〇—九〇一又大に文學の復興を企圖したり。爾來中世の哲學スコラチズム起りて學者は道理を以て當時の宗教を扶持し勉めて學問を以て信仰を助成するの要具と爲したり之に因て討究推論の術大に進歩するを得たり。第十三世紀には歐洲列國の大學勃興し生徒數万を以て敵へられ學者多く羅甸の古文及羅馬法を研究し最早や此頃に至りては暗黒の時代にはあ

らざりき。物理上の科學に於ては西班牙に於ける亞刺比亞人の諸學校大に感化を列國に與へ而して十字軍の影響も亦益歐洲の文運を開發せしめたり。而して第十世紀と第十四世紀の間に歐洲列國は漸やく近世の國語及び國文を發生せしめつゝありき。ヤンテ紀元後一一三二—一一六は伊太利文學の祖となり尋てベツラル紀元後一一三〇—一一四及びボツカ紀元後一一三〇—一一四同一三三—一三五の徒陸續輩出して伊太利に希臘及び羅甸の古學を復興せしめたり。第十四五世紀の羅馬法王及び伊太利の諸君主多く此の復興を奨励し特にフロレンスは古學復興の中心たりき。又た英國にはチロ紀元後一〇三二—一〇八出でて、近世英文學の端を開きたり。一千四百五十三年コンスタンチノール落城したりしが該府の希臘學者は此の前後に既に古書を携へて伊太利及び其他の諸國に逃れ更に古學復活の氣運を助成したり。特に印行術の發明活字版の完成同時に成就して一層文藝復興の大勢を四方に蔓延せしむることを得たり。印行術及び製紙の術共に支那より傳はりて第十五世紀の半までに金屬活字を以て文書を印行するに至れり紀元後一四五〇。伊太利より古學復興起りて獨逸に移り遂にマルチンルターに至りて古學復興の精神は文學上より宗

教上に轉じ遂に基督の眞教に立ち廻らんとして爰に近世史上の大事件たる宗教改革を惹起するに至れり紀元後一五二〇。斯の如くコロンパスが新世界を發見せし頃には新教の開祖マルチン・ルーテル紀元後一五三四及び地動説を唱へて近世天文學の祖となりたるコペルニカス紀元後一四七三も亦た既に生れて世にありき。

第十五世紀列國の大勢

聖羅馬帝國は衰へて伊太利は列國に分裂し而して東羅馬帝國は遂に土耳其人の爲に亡滅したり。然れども東方にはハンガリ

イ王國ポーランド王國ありて土耳其人に當り又た露國人も漸次蒙古人の東縛を脱し一千四百七十七年遂に獨立することを得たり。北方には唃の女王マルガレットがカルマルの條約紀元後一三九七により瑞典及び那威を合一せしめし以來瑞典は一千五百二十四年まで又た那威は一千八百十四年まで唃と結合したりき。瑞西は元と聖羅馬帝國の一部となりしが帝國の衰微に乗じて漸次分離し、ルドルフ一世(皇帝の時市區の獨立を獎勵せしに其子アルベルト墺地利公となるに及び之に反對の政策を取りしより瑞西人之に叛き一千二百九十一年ウリ・シユウイッ及びウンテラルデンの三州聯合し、一千三百十五年モルガルテンの戦に於て大に墺國

の兵を破り、爾來實際に於て獨立を維持したり。荷蘭は當時佛國の王族バルガンデー公國に屬したり。バルガンデーは佛王ジョーインの時紀元後一三六三一其の妻の權利によりて之れを次子フィリップに與へしより聖羅馬帝國の一部にてあり乍ら實際佛國の王族に所領せられたり。而して却て佛國統一の妨害となり百年戰爭中多く英國に同盟したり。第一代のフィリップ紀元後一三三七一其の妻の權利によりてフランス伯となり又たフィリップの子ジョーイン紀元後一三九七一其の妻の權利によりてハルランド及びゼーランドを領有し其子フィリップ紀元後一四一四一其の妻の權利によりて全荷蘭を領有するに至れり。一千四百七十七年最後のバルガンデー公チャールス死して一女子メリーは皇帝フレデリク三世の子墺地利公マキシミアンに嫁したり。是に於てバルガンデー公の領土は佛王ルイ十一世及びマキシミアンの間に争はれ佛に於ける部分は佛に歸し荷蘭は之よりハプスブルグ家に歸することゝなれり。是れ近世史上ハプスブルグ家と佛國との間に永久なる確執を生じ近世國際史上の大波瀾を生ずるに至りし原因なり。

第十五世紀の後半期に於て百年戰爭の結果により英佛兩國は各々その國內に於

て鞏固なる統一を成立せしめたり。之と同時に西班牙も亦たカスチール及びアラゴンの一致によりてクラナメ王国を滅し突然大統一を成すことを得たり。されば西部歐羅巴に於て英佛西の三國は鞏固なる統一成立し最早や内憂去りて將さに國外に雄飛せんことを希ふの時代とはなりぬ。夫れ弱國若くは強國のみ併存するときは國際戰爭若くは國際政治起るべきに非ず。弱國の傍ら二三の強國あるときは必ず國際上の競争を生ずるは必然の數なりとす。中世の間歐洲列國は封建割據の時代にして戰爭は諸侯と諸侯若くは諸侯と君主との間に行はれ、一國として未だ國外に雄飛するの能力を有せざりき。故に中世に於ては國際戰爭は絶て無かりしと云ふも誣言に非ず。僅かに一國と他の一國との間には種々の關係よりして戦端を開くこと絶へざりしと雖ども概して列國全体に涉るが如き大戰爭なかりき。國內に小戰爭絶へざりしかば國際上には却て大戰爭あらざりき。其の之あるを見るに至りしは第十五世紀の後半期英佛西の三國統一に歸したる後の事なりとす。是時に當り伊太利は第十四世紀以來文藝復興の中心たりしのみならず十字軍の結果東方と交通貿易の衝路に當り且つ農工業歐洲列國に

冠絶したり。然れども無數の小列國に分裂し第十五世紀の後半期には南にチーポルス王国中部に法王の領地北部にヴェニス、フロレンス、ゼノア等の諸共和國及びミラン、モデナ其他數多獨立の諸侯羅列し所謂小國の集合にして其の殷富は偶々以て強國の呑噬を招くの誘引となれり。彼のシ、リー王国一名チーポルス王国は前期以來既に列國の國際競争を惹起するに至るの種子を蒔きつゝありき。一千二百八十二年以來シ、リーはアラゴンに屬し、一千四百三十五年アラゴン王アルフォンソ五世紀元後一四四五遂にチーポルスを併せ死後アラゴン及びシ、リーを弟ジョーン二世紀元一四七九に譲りチーポルスを其の庶子フェルチナンド及び其の子孫に傳へたり。チーポルスに於けるオンズー家は一千四百三十五年に絶へたれども其の權利は佛國に於ける第二のオンズー家に歸し遂に佛國の王室に讓與せられたり。佛王ルイ十一世は智にして伊太利に手を出さざりしかども其子チヤールス八世紀元後一四八八位に即くに及びてオンズー家の權利を主張し伊太利に遠征を試みるに至れり紀元後一四九四。從來伊太利のみならず列國皆内部に統一なくして歐洲全体に弱國併立の形勢ありしに今や歐洲の中原に佛國統一に歸して

勢力最も強く、西班牙も亦た速かに統一に歸し、且つ新世界に領土を得て之に凌駕せんとするの國力を生じたり。是より伊太利は列強國の間に介在せる小弱邦の集合地となり、近世史の初期に於て最も先きに列國競争の衝路となれり。

コロンブスの新世界發見紀元後一四九二、又た葡人ヴァスコガマの印度廻航紀元後一四九七—一四九九及び伊太利に於ける國際戦争の端緒紀元後一四五〇、一は即ち中世史の終りにして近世史の始りなとす。而して此の氣運を成さしむるに至りたるは中世の末期に於ける三大發明の結果なりとす。一は羅針盤にして前に述べたるが如く遠洋航海の爲に道を開き人心の束縛を實際上より解放し去りたり。二は火器にして是れ亦た實は東方支那印度亞刺比亞より傳來したるものなり。第十四世紀の中頃より火器流行して終には封建の兵制を一變せしめ大に歩兵の價值を増加し平民の品位を上進せしめ君主統一の政策を成功せしめたり。三は即ち活字版にして文藝復興を諸國に蔓延せしめ又た宗教改革の爲めに大なる助力を與へ以て近世の學問を發達せしめたり。此の三大發明は皆な東洋より西洋に傳はりて其の影響は恐らくは第十九世紀の前半期に於ける蒸氣船、鐵道及び電信器の發明の世界に於

けるよりも大なりしと云ふことを得可し。

西洋中世史終

西洋中世史 第四章 中世の末期

62
392

11.11.11

